

「馬場小室山遺跡フォーラム」第66回ワークショップ

【原動力！パブリック・アーケオロジ-2015】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジ-からみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

1.【「見沼文化」2015 感謝祭(毎年恒例 5/4)】： 県史跡・馬場小室山遺跡のクリーンアップと青空考古学教室

- ・2015 年3月の県指定史跡(同時に市指定史跡の解除)を受け、カラーチラシを 1,000 枚作成。東大能研が中心となり、近隣の公民館や地元の小中学校などにPR。「さいたま朝日」の4/26版情報BOXにも広報。
- ・「青空考古学教室」ではNPO法人野外調査研究所さいたま支部長・高原勇夫氏にお話を依頼しました。見沼がかつて海だったことを地質学から説明します。さいたま支部にもPRしましたので是非とも参加の上、馬場小室山遺跡を堪能して頂きたい。考古学からは齋藤弘道氏が石器について説明します。
- ・いつも馬場小室山遺跡を気にかけて下さっている「見沼100年構想の会」様から鳥瞰図ポストカード50枚の寄贈がありましたので、参加者への記念配布とさせていただきます。ご厚意に深く感謝します。

2.【「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」のNEXTとは？】： 県史跡から国史跡へ、次の一手を打つ！

- ・2005 年にさいたま市指定史跡への上程を行い、その勢いで指定後に結成された「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」(実行委員長:大田堯)の10年間の活動実績から新たな飛躍への道を探ります。

3.【「コムナレ考古学」事始め(8/1(土)・2(日))】： 緑区公民館考古学から県都「コムナレ考古学」へ

- ・NPO 法人野外調査研究所との共催でコムナレ9Fの展示コーナーにて「ジオと人類」という大テーマの下、広く埼玉県民に県史跡・馬場小室山遺跡を紹介する活動(ジオラマと遺物展示等)を行います。
- ・8/2(日)を第67回ワークショップとし、ギャラリートーク形式で講座を計画します。
尚、秋以降にも県都「コムナレ考古学」を継続しますが、テーマ候補は以下の通り。
〈1〉「山田湾まるごとスクール」と「防災・減災考古学」への取り組み
〈2〉荒川流域における拠点遺跡の形成と「製塩土器」の分布—縄文時代晩期の「製塩」往還集落—

4.【「山田湾まるごとスクール」(8/21(金)-23(日))】： 「防災・減災考古学」は復興の原動力！

- ・3・11東日本大震災に学ぶ復興の人類史としてパブリック・アーケオロジ-の可能性を検討します。
- ・「山田湾まるごとスクール」では「山田湾文化」の理解に向けて川端弘行コレクションの活用を進めます。
- ・「防災・減災考古学」では『山田湾まるごとスクールのしおり』(2014-11-13 刊)をモデルとして、沿岸地方における地域や拠点集落での「土器型式」の連続性と凋落イベントに注目したモデル構築を進めます。

5.【「先史産業考古学」の構築】： <2015 年からの新テーマ！>縄文時代の環境資源と加工産業の発達

- ・「縄文人は何を考え、どう生きたか？」の第3回テーマとして「石の文化」を検討します。馬場小室山遺跡や氷川神社遺跡と同じ「縄文塚」形成が特徴的な「土塚むら」の、荒川流域の典型的な晩期集落であるさいたま市奈良瀬戸遺跡に学びます。モデル構築に当たっては、「玉斧」のように地域社会を超えて供給される物流が顕著に見られる製品と製作遺跡について考え、価値の多様性と経済の発展にみる集団と地域社会の構成を追及します。
- (1)海岸の自然は宝箱： 富山県朝日町のヒスイ海岸でヒスイや蛇紋岩の採集(9/5(土)・6(日))
 - ・「石の文化」の日本海側代表例として、富山県朝日町宮崎海岸などでは蛇紋岩やヒスイの漂石が見られ、近隣の遺跡においては磨製石斧や大珠の製作が注目されています。
 - ・NPO 法人野外調査研究所が朝日町との共催で「翡翠フォーラム」(9/5(土))を開催します。
- (2)転石のある河原も宝箱： 秩父の蛇紋岩と緑泥片岩などと大宮台地の集落との関係
 - ・奈良瀬戸遺跡の「玉斧」は蛇紋岩製であり、荒川上流域で縄文人の宝探しを体感します。
- (3)その他の産業： 学史的な黒曜石など石材産業／漆器産業／塩蔵品産業／装身具・祭具産業……。

6. その他、ワイン・アーケオロジ-による情報交換会など： 日程の確保もお願いします。

- ・6/1から浅野光彦個展がスタート予定。
- ・「見沼文化」2015 収穫祭 #1(10/10 予定)： 飯塚邦明ジャズピアノコンサート(14:00 開演)
- ・「見沼文化」2015 収穫祭 #2(11/3 検討中)：「縄文人は何を考え、どう生きたか？」の第3回として予定。